

# 富士山！万歳！！

8月24日（火）～8月27日（木）

IN 国立中央青少年交流の家～赤岩八合館

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	施設に到着	作戦会議
2日目	荷造り・出発	富士登山	山荘到着・八ガキ書き
3日目	山頂出発・下山開始	施設到着・片付け	振り返り
4日目	施設清掃・プール	関西に向け出発・解散	

一日目： おはようございます！いよいよ、“富士山！万歳！！”のスタートです。前日までの悪天候が嘘かのように当日は晴天で、富士登山に天気も味方をしてくれている様です。京都駅に集合し、車に乗り込み、富士山の麓にある施設へ向かいます。車内では、富士山に向けてどんなことをしていたのか、いよいよ富士山への意気込みなどの話で盛り上がりました。富士登山講習会で配られたノートを見返しながら、各々富士山に対してイメージを膨らませておられました。談笑で盛り上がっていると、あっという間に静岡県富士宮市に入りました。施設へ近づくにつれて富士山が見えてきました。富士山を目の前に、そのスケールの大きさと迫力に、「大きい」、「あれを登るのか…」と、それまで車内で少し浮き足立っていたメンバーも気を引き締め直したようでした。施設へ向かう途中、登山に必要な行動食を買いに行きました。講習会で学んだことを活かし、自分で量を考え購入されていました。施設へ到着すると、それまで雲に隠れて全体が見えなかった富士山が、みんなを出迎えていると言わんばかりに姿を現しました。先程までの気持ちとは違い、「明日はアレに登るんだ」とみんなの気合も充分です。施設の方から、施設の使い方等のオリエンテーションを受け、部屋へ入室しました。入室後、富士山へ持っていく荷物を分けました。自分のリュックのサイズに対して、持っていく量を考え、みんなで分担しました。その後、夕食と入浴を済ませ、山小屋で書くための葉書の準備をしました。いよいよ、明日の朝出発します。富士登山講習会から今日までの準備をしてきて、自身がついているメンバー、不安な表情をされているメンバー、気持ちはそれぞれでした。寝る前に、富士登山を終えた自分へ向けて手紙を書きました。登る前の率直な気持ちを真剣な表情で書き残されておりました。就寝準備をそれぞれ終え、明日からのために早めに消灯しました。



二日目： 朝から少しソワソワされたメンバーの表情が見られました。食堂で朝ごはんをいただき、荷物の最終の確認をします。荷物の準備をしている段階ではわかりませんでした。いざ持ってみるとふらついたり、リュックのバランスが悪かったりしていました。最後の最後まで確認を怠らず、準備バッチリです。食堂でお弁当を受け取り、富士山へ出発しました。麓からはバスに乗り換え、まずは五合目に到着しました。五合目は雲の中であり、幻想的な世界が広がっていました。もう既に酸素も薄くなってきているため、お弁当を食べながら体を慣らしていきます。いつもは少食のメンバーも体力をつけないと意識でしっかりと完食されておられました。昼食を終え、今回のルートを皆で確認しました。富士宮ルートを経由し、御殿場ルート八合目の【赤岩八合館】が今日のゴールです。



皆で声を合わせて掛け声と共に登山はスタートしました。序盤は階段が続き、息が上がるメンバーも多くおられましたが、六合目までは気持ちを保ち、皆で声を掛け合いながら難なくクリアです。六合目から七合目に差し掛かってくると、空気も薄くなり、頭痛を訴えるメンバーが出始めました。そんな時に、勇気づけるのが他のメンバーです。声をかけ、足を進め、「一緒に登ろう！」と何度も励まし合っている姿は本当に素敵な姿でした。七合目から徐々に皆の足取りも重くなっていきました。八合目に着く頃には気温も下がり、気持ちもだいぶと落ちていました。富士宮ルートから御殿場ルートへと経由する際、とても綺麗な夕日が現れました。そこまで気持ちが落ちていましたが、その光景を見て、「頑張ろう！あと少し！！」と、足を進めることが出来ました。御殿場ルートに入ると蛇腹道が続きます。山小屋は見えてはいるはずなのになかなか着きません。心が折れそうな時、赤岩八合館から声が聞こえてきました。そのエールに呼応するように最後の一踏ん張りを見せていました。無事に赤岩八合館に到着し、安堵の表情を見せるメンバーが多くおられましたが、ここで気を緩めてしまうと疲労や高山病になりやすいので、気持ちを切らさないよう皆んなで声を掛け合い、適度な緊張を保ちつつ過ごしました。夕食のカレーをいただき、昨日準備していた葉書を書きました。書き終えたメンバーから就寝や明日の準備を進めます。初めての山小屋にソワソワとしておられましたが、明日に挑めるように申し上げますみなで気持ちを整え、翌日は夜明け前に山小屋を出発するために、終えた方から寝床につきました。



**三日目：** 夜明け前、前日の登山で大いに疲れていましたが、皆素直に起床することが出来ました。他の宿泊客は休まれているので、なるべく物音立てないように暗い中、出発準備をしました。しっかりと防寒対策をして山頂を目指します。暗い夜道の為、ヘッドライトの明かりを頼りに足を進めます。山頂に徐々に近づいているものの、なかなか付かず、疲れも見え、弱音を吐いてしまうかと思いましたが、皆想いは一つ、『山頂に行きたい』と強く思っていた為、誰一人として吐くことはありませんでした。皆の頑張りからご来光より前に無事に山頂に到着しました。山頂の気温は想像していたよりも低く、登頂出来たという喜びよりも寒さが勝っていたように思います。ご来光を拝める位置に移動し、その時を待ちます。夜明け前に起きた事と前日からの疲れも重なり眠ってしまいそうになるメンバーもおられましたが、太陽が昇ってくると皆釘づけになっていました。天候にも恵まれ、とても綺麗なご来光を拝むことが出来ました。ご来光を拝んだ後は、富士山最高峰【剣ヶ峰】に挑戦しました。「辞めておこうかな…」とつぶやくメンバーもおられましたが、それよりも『皆で山頂に！』という想いが勝ち、全員で挑戦することが出来ました。剣ヶ峰の石碑で記念撮影を済ませた後は、富士山頂限定のお土産ショップに立ち寄り、登頂記念にそれぞれ思い思いの物を購入しました。大方済ませると下山開始です。二日間に分けて登った富士山を、今日中に下山しなくてはなりません。名残惜しく山頂に別れを告げ、ひとまず赤岩八合館を目指しました。下り坂に恐怖を感じ、少しゆっくり目の足取りとなってしまうりましたが、無事に赤岩八合館に到着し、朝ごはんをいただきました。朝早くから動いていたので、少し休憩もしてから下山しました。下山は、御殿場ルートを六合目までおり富士宮ルートへ戻ります。御殿場ルートの途中にある【大砂走り】を元気よく駆け降り、行きとは

打って変わってかなりのハイペースで降りていきました。少し険しい道もなんなく超えてゆき、富士宮ルートへ戻ってくると、自然と笑みが溢れ、気持ちも余裕を感じさせられました。そして、ちょうど昨日の登山開始から 24 時間後に登山口に到着し、大きな怪我や体調不良なく全員でゴールしました。メンバーの表情は、「やり切った!」、「頑張った!」と晴れやかでした。五合目からのバスでは、疲れが一気に出てきたのでしょうか、皆休んでいました。麓で車に乗り換え、施設に戻るのですが、その途中にスーパーに立ち寄り、無事に登山を終えたご褒美アイスを買いました。いつも食べるアイスでも特別で、満面の笑みが伺えました。施設へ到着後は荷物や衣類の片付けをしました。そして入浴を済ませ、食堂で夕食をいただきました。入浴も夕食も、疲れた体に染み渡り、癒されました。夜は振り返りを行いました。初日の道中の写真から、今日の施設へ戻ってくるまでの写真を見返しました。登山前の浮かれている表情や登山中の辛い表情、ご来光を見ている表情、戻ってきた時の安堵な表情、沢山の表情とその時の気持ちを振り返りました。入浴前に、みんなには宿題が伝えていました。富士山を登ってみて、【学んだ事】、【新しく気付いた自分】、【来年も登りたいか】をそれぞれに考え、写真を見返した後に発表しました。一人一人が感じた想いを皆で共有しました。明日、関西へ向けて帰ります。就寝前に荷物の整理をしてから寝床につきました。



**四日目：** 疲れもでてきているため遅めの起床となりました。先に朝食を済ませ、お世話になった施設の掃除をしました。富士登山で得たチームワークを活かし、協力をし、テキパキと掃除を進めていきます。施設から荷物を運び出し、退所を済ませ、お世話になった施設と富士山に御礼を伝え、関西へ向けて出発しました。途中、お土産を買うために SA に寄りました。登山中よりも真剣なのではと思わせる目つきでお土産を選ばれておられました。お土産の購入を終え、徐々に関西へ向けて近づいていきます。次の休憩で、昼食を済ませました。最後の全員での食事です。食べたいものを注文し、楽しい雰囲気ですが、どこか寂しさも漂わせていました。帰りの車内では、DVDを観ました。その劇中に富士山が出てきました。富士山が出てくるたびに反応しておられ、しっかりと意識付けされていました。関西に戻ってき、京都駅に到着し、全体解散です。「また来年ね!」、「また会おうね!」と言葉を交わし、お別れをしました。その後、尼崎へ向かうのですが、最後まで手を振り別れを惜しんでおられました。

## <キャンプ総括>

この度は、“富士山!万歳!!”にご参加いただき誠にありがとうございました。今回、私も初めての富士登山であって、メンバーの気持ちを一番近く感じる事が出来たのではないかと思います。「登れるかな」、「大丈夫かな」と、私自身とても不安でした。きっとメンバーも同じく思っていたのではないのでしょうか。しかし、こうも思いました。「みんながいるから登れる!」、「メンバーに弱いところなんて見せられない!」この想いもきっとメンバーが思っていたと感じました。だからこそ、今回全員で富士山最高峰の【剣ヶ峰】まで登り切ることが出来たのだと思います。『一人では決して登れなかった』という事を、メンバーと強く共感出来たことを本当に嬉しく思います。富士山はずっと皆さんの挑戦を待っていることでしょう。再びみんなで挑戦できる日を楽しみにしています!

(橋本 里佳)